

県外派遣報告書

| | | | | |
|---|---------------------------|----------------|----------------|------------|
| 審判員名 | 藤林 比登美 | 所属 | U18 | |
| 大会名 | 令和5年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会 | | | |
| 期間 | 12月23日(土)～29日(金) | | | |
| 会場 | 武蔵野の森スポーツ総合プラザ／東京体育館 | | | |
| スケジュール | | | | |
| 期 日 | 内 容 | | 場 所 | |
| 12月23日(土) | 女子1回戦 | | 武蔵野の森スポーツ総合プラザ | |
| 12月25日(金) | 女子3回戦 | | 東京体育館 | |
| 実技 | | | | |
| 担当試合 | 期 日 | 12月23日(土) | 女子 | |
| | 対戦カード | 仙台大学附属明成高等学校 | VS | 日本航空高等学校石川 |
| | 相手審判 | CC 藤本 梨紗氏(神奈川) | U1 慶野 芽以氏(栃木) | CC U1 U2 |
| ミーティング内容 主任 平原 勇次氏(東京) | | | | |
| <p>前半はプライマリーのレフリーがコールをすることで、落ち着いてゲームが進んでいった。その中で、「留学生に対するの守り方はどうだったのか？」ということについてはもう少し吟味が必要である。また、POCへのこだわりを強くすることで、判定の質をより高めていきたい。</p> <p>後半になると、取り上げるべきコンタクトに対して笛が入らないことが増えていった。3Qの入りではクルーとして笛がならない時間帯が続き、その整理が課題となった。主任の平原氏より、メンバーが変わったことでの整理が必要であったと講評いただいた。また、3Q3分37秒、ペイントエリアでのビックインパクトに対してブロッキングを宣したが、ディフェンスを長く見ると判定が変わったかもしれないとご助言いただいた。ゲーム終盤になると白のオールコートゾーンプレスやダブルチームでの青に対する手の使い方が気になったが、整理がつかずゲームの終わらせ方としてはすっきりいかない締めくりとなってしまった。</p> <p>4Q13.7秒ゲーム終盤のOOBの訂正について、訂正をするなら直し方、見せ方の工夫が必要であり、ゲームのフローを感じていけないという選択肢があることを学んだ。ゲームの終わらせ方として適切なのはどういった行動なのか、そういったことも感じながら余裕を持って判定をしていきたい。</p> | | | | |
| 担当試合 | 期 日 | 12月25日(月) | 女子 | |
| | 対戦カード | 東海大学附属福岡高等学校 | VS | 鶴沼高等学校 |
| | 相手審判 | CC 尾形 美樹氏(長野) | U1 久保 あしみ氏(千葉) | CC U1 U2 |
| ミーティング内容 主任 村上 恵美氏(神奈川) | | | | |
| <p>PGCでは、スカウティングで気になったところやチームの特徴について共有を行いゲームを迎えた。ゲームの開始から、ボディのコンタクトがある現象に対してチープなコールが続いてしまった。オフェンスのRSBQを見た上で、チームのキープレイヤーにつけざるを得ないものなのか？また、同じプレイヤーに連続してコールすることの意味はしっかりあるのか？といったゲームコントロールとしては疑問を抱くような笛の入れ方があった。</p> <p>1Q47.8秒、ペイントエリアでのポストプレーに対して、トレイルとリードの判定が割れてしまうケースがあった。トレイルからオフェンスファウルを決断し、リードからも同じプレイヤーに対してトラベリングのコールがあった。レポートが終わるまで判定が割れていることには気付かず、CCの声掛けにより改めてオフェンスファウルという1つの判定を決断することに至った。大きな会場であることから、笛の音はいつも以上に強く吹くことを心掛けた。主任の村上氏より、ポストプレーに対して起こりうるケースを想像することで、プライマリーによって見え方が違ったり、「判定が割れる」可能性があることを知っておくことが引き出しとして必要だということをご助言いただいた。判定に至るまでのポジショニング、判定した後の表現、ベンチへの関わり方、一連の流れの中で何ができたのかということを実感していきたい。</p> | | | | |
| 全体の感想 | | | | |
| <p>この度は、全国高等学校バスケットボール選手権大会へ派遣していただきありがとうございました。割り当ていただいた2日間、また今大会の試合を観戦して改めてバスケットボールの素晴らしさを感じる貴重な機会となりました。3年間を懸けてきた高校生たちの大舞台を責任持って担当することの重要性を改めて感じました。しっかり試合を担当する度に反省は尽きませんが、特に見せ方や見られ方にはこだわりを強めていく覚悟です。今一度行動に責任と自覚を持ち、堂々とコートに立てよう自己研鑽に務める所存です。そして、今大会で学んだことを県内へ還元できよう今後の審判活動にも取り組んで参ります。</p> <p>最後になりましたが、今大会を運営していただいた皆様、審判担当の平原様をはじめとした審判員の皆様、日頃よりご指導いただいている埼玉県審判員の皆様へ心より感謝申し上げます。2月には埼玉県での高等学校関東新人大大会が控えておりますので、気を引き締めて今回の経験を生かしながらいよいよ大会となるよう尽力して参ります。</p> | | | | |